

<報道発表資料>

令和8年4月13日

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開

シリーズ寛永行幸 400 年

令和8年度春期 背景の巨松 ～〈式台〉式台の間～

この度、春期原画公開「背景の巨松 ～〈式台〉式台の間～」の開催について詳細が決まりました。今回は、寛永行幸で、能観覧の末席となったとされる〈式台〉から、式台の間の障壁画を展示します。



〈式台〉式台の間障壁画《松図》北面（部分）

重要文化財（絵画）二条城二の丸御殿障壁画の大半は、徳川家三代将軍、家光（1604-51）の時代、寛永^{かんえい}3年（1626）の大規模改修に伴い、狩野派^{かのう}の絵師たちによって描かれました。元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示収蔵館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開します。

今年度は、「シリーズ寛永行幸400年」と題して、今からちょうど400年前に行われた寛永行幸で使用された二の丸御殿の部屋の障壁画に焦点を当て、ご紹介します。

【事業概要】

- 会期 令和8年4月20日（月）～5月31日（日）
- 入館時間 午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分）※二条城の入城受付は、午後4時まで
- 場所 元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館（〒604-8301 京都府京都市中京区二条城町541番地）
アクセス：地下鉄東西線「二条城前駅」又は JR 京都駅から市バス 9、50号系統「二条城前」下車すぐ
- 入館料 100円（未就学児無料）※別途入城料が必要。※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方、二条城の入城料、二之丸御殿観覧料及び本丸御殿観覧料がいずれも免除される方の入館料は、不要です。
- 公開作品 〈式台〉式台の間障壁画《松図（まつず）》《花鳥図（かちょうず）》（障壁画面数：31面）
- 主催 京都市文化市民局元離宮二条城事務所



〈式台〉式台の間障壁画《松図》南面（部分）

<解説と見所について>

徳川幕府二代将軍の秀忠（1579～1632）は、娘の和子（1607～78）を後水尾天皇（1596～1680）に嫁がせ、徳川将軍家は天皇家の外戚となりました。将軍職を三代家光（1604～51）に譲り、大御所となった秀忠は、天皇を二条城に招くために、二条城の大規模な増改築を命じました。二条城を創建した徳川家康（1543～1616）の時代に造られた御殿も大改修され、二の丸御殿となりました。〈式台〉は、家康の時代からあった建物を大幅に作り直して現在の位置に建てられたものと考えられています。

行幸の四日目に、〈大広間〉の南側に設けられた舞台で能が上演されました。〈式台〉の縁は、天皇及び行幸に随伴した天皇の家族、公家や門跡に仕えた下位の公家である事務官や武官といった人々の観覧席になりました。その後方に位置するのが式台の間です。

東西に長い式台の間の北側の壁には、二本の巨大な松が描かれています。巨大な松は式台に続く〈大広間〉にも展開しています。式台の間の松は、この先に最も公的な対面所空間である〈大広間〉一の間から三の間があることを予告するかのように描かれています。

これらの部屋はいずれも狩野探幽（1602～74）が筆者と伝えられてきましたが、松の特徴が異なることから、式台の間については、探幽筆ではないと考えられるようになってきました。式台の間の松は、〈大広間〉の対面所の松に比べて、周りの余白が少なく、比較的上方へ伸びる傾向を見せます。観覧席の背景を飾った印象的な松の姿をぜひ間近からご鑑賞ください。

<お問合せ先>

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

電話：075-841-0096